

福津 心しぎ発見



悩める恋心 なちごやま 名見山万葉歌碑

市の北部、国道495号沿いにあるあんずの里運動公園。ここには古いにしえの時代の女流歌人の恋心が、碑に刻まれています。今月は名見山万葉歌碑を紹介します。



▲丘の中腹にあるレストラン手前に歌碑はあります

「大汝 おほなむら 少彦名 すくなひこな の 神こそは 名付け始め なづけはじめ 名のみを なのみを 名見 なみ 山と負ひて やまをひ わが恋の こひ 千重の ちぢゅう 一重も ひとへ 慰めなくに」
日本最古の歌集である万葉集を代表する女流歌人、大伴坂上郎女（おとおものさかのうえのいらつめ）が名見山越えの峠道で詠んだ歌です。訳すと「名見山の名は、大汝（大國主命）と少彦名命がはじめて名付けられた名ですが、心がなごむという名を背負っているだけで、私の苦しい恋の千のうちの一つさえも慰めてくれない」となります。

名見山越えとは、奴山から宗像市田島へ抜ける峠道です。大伴坂上郎女は宗像大社方面へと向かう峠の道中で休憩をとりながら、美しくも荒々しい女界灘の海を眺め、苦しい恋に悩む女心を歌ったのでしょうか。

歌碑は、あんずの里運動公園の入り口から、園内奥の上の駐車場へと向かう途中に立っています。

